

小学生に、「橘寺」の天井画、二面石、亀石、鬼の俎・鬼の雪隠古墳の石造物などをガイド

春の遠足シーズンが到来。5月9日（金）、歴史サークルがオリエンテーリングに取り組む小学生をガイドしました。

迎えたのは大和高田市立浮孔西小学校の6年生48人。

「入鹿首塚・飛鳥寺」をスタートした児童たちは、「石舞台古墳」から6班に分かれ、マップを頼りにルートを確認しながら「高松塚壁画館」まで歴史学習に取り組みました。

途中の「橘寺」「亀石」「鬼の俎・鬼の雪隠古墳」の3カ所で、訪れた児童をサークル員5人が定点ガイドで案内しました。

聖徳太子ゆかりの「橘寺」では、太子の伝承を聞き、不思議な造形の「二面石」を見学。寺名の由来となった「田道間守」の伝説などに耳を傾けました。

また「往生院」の天井画を見上げ、格天井の正方形の中に一つ一つ描きこまれた花の絵の精巧さと豪華さに驚いていました。



往生院の「天井画」を見学する子どもたち



「鬼の雪隠古墳」でガイドの説明に聞き入る子どもたち

次の亀石、鬼の俎・雪隠も飛鳥の謎の石造物の1つ。児童たちは、ガイドから名前の由来となった伝説の説明を受け、飛鳥のロマンに触れていました。

この日は、県内小学校の“遠足デー”だったらしく、遊歩道は子どもたちであふれ、石造物の前で盛んに記念写真を撮っていました。

亀石の担当は、「次から次へと子どもたちがやって来て大変忙しかったけれど、元気な子どもたちとふれあうことができて楽しかった」と

話していました。

中道教子・歴史サークル長の話

「私は、橘寺東門で、昼食後石舞台を出発した子どもたちを先生と待っていました。班ごとのオリエンテーリングなので子どもたちの到着時刻は、予測不能でした。行き過ぎて戻って来るグループ、途中、山にも登ってきたと自慢気に話す子どもたち、ガイドを聞き終えてから出口の西門ではなく東門に戻って来てしまう子どもたち、など様々でした。雨が降る中、気長に彼らの到着を待ち、スタンプを押す先生、リュックからペットボトルを取り出し一人ひとりに手渡す先生、どの先生も子どもたちを笑顔で迎えていました。とても印象に残った光景でした」



石舞台公園からのオリエンテーリングで、迷いながらも最初のポイント「橘寺」に到着した子どもたちを迎える先生方と担当ガイド

(文と写真：27期佐藤安市)